

まずは
やってみる

D 自分の人生を
Design 自ら設計する姿勢
R 振り返る姿勢
Reflection Inquiry 知ろうとする姿勢
V 未来を考える姿勢
Vision Empathy 自分だけじゃないと
思う姿勢
Empathy

創造コースの先生が聞き手となり、さまざまな分野の方々にインタビューを敢行。
そこから見える「学び」とは何か…。「創造コース」にふさわしい新しい価値観の発見をお楽しみに！



INTERVIEW.01

坪谷 ニュウエル 郁子さん
東京インターナショナルスクール 理事長
国際バカロレア機構日本大使

ひとびとが自分の仕事に誇りを持ち、お互いに尊重し合える社会を形成したいですね。格差を生み出す歪な社会をどのようにすれば変えることができるのか。それが私のライフワークの根本にあります。人はそれぞれ得意なことも違うし、その得意を生かし合うことに価値があり、助け合いもできる。そんな人の基本は誰も教えてくれませんでした。本当に大切なことを学ぶ環境が土台にある必要があります。

IB(国際バカロレア)は英語力を養成するという印象がいまだに根強いのが残念ですが、私は、IBには日本の教育の弱い部分を補う教育があると思っています。1つ目は、自分が好きなこと、できることに自信を持たせることです。2つ目は、本当のコミュニケーション力を育むこと。

事実をきちんと認め合い、意見を共有する文化を、母国語で学びながら築き上げてください。創造コースでめざしていることに共感し、嬉しく思います。

子どもたちにはわくわくしてほしい、インスピアイされる経験から自らの人生を切り拓いてほしい、と思っています。何かに憧れ、希望に向かって好きなことにチャレンジすることで、見えてくるものがあるはずですが、それを許さない雰囲気が今の日本社会にはあるかもしれません。

「学校」という枠にのみ、子どもたちを閉じ込めてしまうのはもったいないと思います。内発的な動機付けと自己選択を積み重ね、自らの想いに気づく。その機会と手段のために学校は存在するのではないでしょうか? 単なる「授業を提供する」という枠組みだけで考えるのではなく、「真理を追究してこそこの探究」ですので、人生そのものが探究である、と捉えられるような学びの場を、生徒・教職員だけでなく、保護者の皆様や地域の方々と一緒に創っていきたいと考えています。

西日本においては、探究や創造コースのような取り組みはまだ多いわけだと思いますが、めざしている方向は同じだと思っております。ともに歩めるることを嬉しく感じております。わくわくを育て、素敵な社会を創っていきましょう!



INTERVIEW.02

日野田 直彦先生
武蔵野大学附属千代田高等学校 中高学園長
武蔵野大学中学校高等学校 中高学園長
元最年少、大阪府立高校の校長

創造コース紹介はこれら

O-DRIVE 詳細はこれら



創造コースに関する
最新情報をお伝えします。
お友だち登録してね。



LINE公式
アカウント
OPEN!

入試情報

入試科目は、3科目と創造コースの特色ある試験になります。

国語・数学・英語 + 特色入試(ガイダンス⇒グループワーク⇒発表⇒記述による振り返り)



〒567-0013 大阪府茨木市太田東芝町1-1 TEL 072-697-8185(代)

N E W

創
造
—
ス

自分たちだから

創造できる価値を見出し、

自信がもてる自分なりの

生き方を実現しませんか?

追手門学院高等学校

Q.コースの名前の由来は? A.自分でやってみて、実感して、考えて、振り返ることを繰り返し、自分で自分の人生を切り拓く(新たな価値を創造する)力を身につけて欲しいという思いが込められています。/ Q.何をするコース? どんなコース? A.自分を表現し、チームで何かを成し遂げるという学びを発展させ、教科授業においても探究プロジェクト型の授業を行い、創造力、判断力、表現力、コミュニケーション力などを育みます。/ Q.探究プロジェクト型の学び

自分を知り、お互いを認め、行動を起こし、価値を創造する学びで自己実現を。

ポイント&伸ばせる力

- 1**新しい価値を創造し、自信を持って行動できる人材の育成。**自己肯定感、自信**
- 2**対話、協働を当たり前とした探究的な教科の学びがベース。**好奇心、自律的学習者、コミュニケーション力**
- 3**表現、探究で自分・他者・社会に目を向けるプログラム。**表現力、共感力**
- 4**多面的に思考する機会を、テーマの導入によって設ける。**想像力、思考力**
- 5**個人・チームで選択し、創造する、行動するプロジェクト。**判断力、創造力、行動力**

カリキュラム

※科目数・単位数は変更の可能性があります。

高校1年			高校2年			高校3年			
教科	科目	単位数	教科	科目	単位数	教科	科目	単位数	
国語	現代の国語	2	国語	言語文化	1	国語	論理国語	2	
国語	言語文化	1	国語	論理国語	2	国語	古典探求	3	
地歴	地理総合	2	公民	公共	2	地歴	地理探求	3	
数学	数学Ⅰ	3	数学	数学B	2	数学	数学Ⅲ	3	
理科	物理基礎	2	理科	生物基礎	2	理科	数学C	2	
保体	生物基礎	2	保体	体育	2	理科	物理	4	
芸術	美術Ⅰ	2	芸術	保健	2	保体	化学	4	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	外国語	英語コミュニケーションⅡ	3	保体	体育	3	
	論理・表現Ⅰ	2		論理・表現Ⅱ	2	外語	英語コミュニケーションⅢ	3	
情報	情報	2	家庭	家庭基礎	2	外語	論理・表現Ⅲ	2	
学校	表現Ⅰ(仮称)	2	学校	エンジニアリング	2	理数	理数探求	2	
設定	表現Ⅱ(仮称)	2	学校	卒業プロジェクト	2	学校	表現Ⅳ(仮称)	2	
総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	2	ホームルーム	ホームルーム	1	総合的な探究の時間	2	ホームルーム	1

多様な進路

本校で経験したことを活かして幅広い選択肢の中から、「自らの幸せを実現する」、「社会貢献を実現する」、「自分自身に自信が持てる生き方を実現する」ことができる進路選択を自ら選択し、個々にとって「よりよい進路」をめざしていきます!

手段

自己実現の方法は様々。一緒に考え、その選択をサポートします。

総合型選抜や学校推薦型選抜

旧来の指定校推薦・公募制推薦・AO入試です。グループワークやプレゼンテーション、面接などを課すことが多く、これらの入試で入学する学生数も増えてきています。創造コースの学びとの親和性も高いと考えられます。

海外進学

ハワイ大学KCCとの教育連携、ティラーズ大学(マレーシア)指定校、海外大学進学協定校推薦制度(近畿日本ツーリスト協力)などの活用も視野に入れながら、リスクも含めて話し合いながら進める体制でサポートします。

一般入試

一般入試にも対応したカリキュラムになっています。

専門の道へ

専門職の養成を行う学校や機関への道も。

探究プロジェクト型の学び

2コマ連続の時間割

探究型の学びや、協働しながら進めるプロジェクトには、内容を深めるための時間も必要です。1日に学ぶ科目数を減らし、2時間かけて深く学ぶことを目的とした時間割。自律的に学ぶ姿勢や学習者の余白も作り出しができるかもしれません。内容の定着も促進されると考えています。

午後はアウトプットがメイン

全てではありませんが、午後にはアウトプットの授業を多く配置しています。午前中にインプットしたものを見直したり、形にするアウトプットで新たな気づきが生まれる。さらに振り返りを通じて、自分なりの意味づけを積み上げていきます。

探究型の教科の学び

英語コミュニケーション

オンライン英会話を通じて発見したことから、自分が何が必要か考え、使える英語をみにつけるために個人、グループで学びます。

歴史総合

歴史建造物を訪れたり、いろんな人にインタビューしながら発見した歴史の持つ意味を自分で考えたり、グループでアイデアを出したり。歴史的な視点を働きながら、実際の歴史を紐いていきます。

総合的な探究の時間

とりあえずやってみる経験から振り返り、自分にしか創造できないことに気づくきっかけになる授業です。目に見えないものをアートで表現したり、チームでデザインしたり、自分で選択したことを探究してみたり。他者との関係性や社会の中で、自分がやりたいことを発見しようしながら、やろうとする姿勢や思考スキルなどを獲得していきます。

特徴のある授業

表現(仮称)

出発点は「身体」。人の関わりや学びの土台となる身体を育む授業です。声や身体を使った表現を通じて、自分の心や身体の動きに意識になり、自分や他者への理解を深めます。「自分を知る」「他者を想像する」「協働する」経験から、違いを超えて他者と繋がり合うための方法を考え、よりよく生きていくためのコミュニケーションの基礎を学びます。

プロジェクト

プロジェクトテーマ

プロジェクトでは、教科学んだ視点を働かせながら、普遍的な価値を追求していきます。1年生では「真」「善」「美」をプロジェクトテーマとし、正しく知ることは?人の行動にはどのような価値がある?と掘り下げる。自分を知り、何気ない日常に怒ることを敏感に捉える眼を養うことで、答えのない時代に羅針盤となる価値観を育んでいます。

プロジェクト期間と成果物

学期ごとにプレゼンや各教科の手法を用いて発表を実施。創造コースでは定期考査を行わず、プロジェクト期間とし、発表の準備や本番を設定する予定です。1年生の最終成果物としては、1、2学期に掘り下げて考えた自分の価値観で、自分なりの正しさや、自分にとって価値のあることを判断し、「美」をテーマに「アート」で表現することに挑戦します。各教科の視点や、表現コミュニケーション・探究・美術・情報などの授業で培ったものの集大成となります。

探究プロセス

The diagram illustrates the inquiry process as a cyclical flow. It starts with 'Action' (Do) leading to 'Discovery' (Discover). From 'Discovery', it moves to 'Reflection' (Reflect) and then to 'Exploration' (Explore). These four stages are interconnected by two main feedback loops: 'Connect' (横断) on the left, which links 'Action' and 'Discovery', and 'Connect' (内省) on the right, which links 'Reflection' and 'Exploration'. Additionally, there are internal connections between 'Discovery', 'Reflection', and 'Exploration'.

探究プロジェクト型の学び

探究プロジェクト型の学びは、A.受動的な授業ではなく、生徒が主体的に学ぶ方法です。自分の興味関心を起点として、実社会と結びながら学ぶ過程を大切にします。その過程でしか得ることのできない知識、スキル、態度を育てます。/ Q.どんな進路を目指すか? A.国公立大および難関私大の推薦入試、海